

<全体分析>

試験時間

90

分

解答形式

マーク式と記述式（大問5）の併用。

分量・難易（前年比較）分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

2024年度に大問1・2で1,352だった総語数が、1,262になっているものの、大問2の選択肢等の語数が増えており全体的には変化なし。

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）**出題の特徴や昨年との変更点**

2年連続して大問5題構成。読解総合では、語句整序問題や3年連続で出題されてきた「本文の要旨をまとめた英文中の空所を補充する問題」は出題されず、大問1では発音問題が出題された。

新課程を踏まえた出題

大問2では、思考力を問うさまざまなタイプの問題が出題されている（詳細については大問分析参照）。

その他トピックス

和文英訳は3年連続の出題であるが、過去には、自由英作文（1989年度）、内容説明（1987年度）、英文和訳（1981・1982年度）などで本格的な記述問題が出題されたこともある。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	読解総合	「思考と感情に関する性差別的固定観念」（630 words）	同意表現選択、空所補充、タイトル選択、内容一致、発音。取り組みやすい設問が中心なので、取りこぼしのないようにしたい。[1]の②の champion は「擁護者」という意味。	標準
2	読解総合	「持久運動と心房細動について」（632 words）	同意表現選択、内容一致。[2]は、示された5つの説明文に該当する人物を答える問題（まとめて9択）。[3]は、示された2つの助言に従った場合の代償を答える問題（まとめて6択）。[4]は、示された7つの質問に答える問題（まとめて9択）。[2]～[4]はいずれも新傾向の問題だが、判断に必要な箇所は見つけやすい。	標準
3	読解総合	対話文（思いを寄せる女性に米国で再会した男性が帰国を前にしての会話、およびその男性のその後のメッセージ）	同意表現選択、男性が女性に後日送ったメッセージの完成。[1]で出題されているのは受験生にはなじみの薄い表現が多いので、文脈を手がかりに考える必要がある。Ms. Yagami と Mr. Hiyoshi はこれまでも大問3の会話問題で登場している本学部ではおなじみの人物。過去問を通して2人の関係性を理解しておくとう利な設問も多い。	やや難
4	文法・語法	空所補充	理系分野で使用されることが多い語彙に関する問題。英語だけでなく、そうした分野の一般常識も必要となる。(4)の seismic waves は「地震波」という意味。	やや難
5	その他	和文英訳	短い日本語の文章を読み、下線部分を英語に翻訳する。指示文に「解答の際は必ず today と tomorrow という語の両方を使用し、1つのセンテンスで表すこと」とある点に注意が必要。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全体として、基本的な文法や語彙の知識、およびそれらの知識を土台とした英文の読解力が要求されている。文法や語彙についての十分な知識を身につけることに加えて、文脈に注意を払いつつ、説明文や論説文を中心にさまざまなテーマの英文を数多く読むようにしたい。また、空所補充や同意表現選択の問題では、選択肢に難解な単語や表現が含まれていることがあるので、類義語・同義語に注意しながら、語彙力を拡充しておくことよい。和文英訳問題は、標準的なレベルの問題を演習しておくことで、対応する力はつけられる。